

2022年12月2日
環境社会配慮助言委員会委員長 原嶋 洋平
担当ワーキンググループ主査 鋤柄 直純

Bangladesh国ジョイデプルーイシュルディ間鉄道複線化事業
(協力準備調査(有償))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2022年11月11日(金) 13:55～16:01
- ・場所：オンラインおよび JICA 本部 (2階 229会議室)
- ・ワーキンググループ委員：小椋委員、貝増委員、鋤柄委員、谷本委員
- ・議題： Bangladesh国ジョイデプルーイシュルディ間鉄道複線化事業(協力準備調査(有償))に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・配付資料：
 - 1) 【事前配布資料】 Bangladesh国ジョイデプルーイシュルディ間鉄道複線化事業(協力準備調査(有償)) SC案
 - 2) 回答表
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第143回委員会)

- ・日時：2022年12月2日(金) 13:58～17:09
- ・場所：オンラインおよび JICA 本部 (2階 229会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 事業効果の発現の観点から、本事業及びジャムナ鉄道専用橋の完成によって、線路容量は増加することになるが、これに伴って騒音や振動の周辺地域への影響が増大すると予想される。本事業とは別事業になるが、鉄道車両（機関車、客車、貨物車、保線車など）増強計画の必要性や計画案（低騒音・低振動車両の導入検討を含める）を可能な範囲で DFR に記述すること。

代替案検討

2. 代替案については、今後入手可能なデータを含めた再検討を行い、その結果を用いて、指標選択・定量評価を精査し、その結果を DFR に分かりやすく記述すること。

環境配慮

3. 樹木伐採の緩和策として、ROW（用地幅）、駅、駅へのアクセス道路などへの植林が想定されている。伐採する樹木の 3 倍を植林する計画があることから、この植林の費用負担者、植林期間、想定される作業実施者及びモニタリング計画を DFR に記述すること。

社会配慮

4. 非正規住民（non-title holder）、社会的弱者など生計回復に困難をきたす被影響住民には移転先地を斡旋する、職業訓練の機会を提供するなど、なるべく手厚い支援策を提供するよう実施機関に申し入れること。

ステークホルダー協議・情報公開

5. 5 つの対象地域には、母子や高齢者の世帯の割合が高い地区が含まれている。また被影響住民の教育レベルも異なることに鑑み、フォーカスグループディスカッションを実施するに際して、参加者の選定方法や参加者への説明内容等について十分な配慮を行うこと。

以 上